

説 教

「敬老の日礼拝」 北浜チャーチ

黒田 禎一郎

2019年9月15日（日）

主 題：「本当に大切なものを悟る時」

—主が語られる—

テキスト：2コリント人への手紙4章16～18節

はじめに

- ・本日は、私たちの教会の「敬老の日礼拝」です。
人生の先輩たちを覚えて、記念する幸いな礼拝です。人生の長い旅路を歩いて来られた方々、みなそれぞれに尊いストーリーがあります。しかも、各ストーリーはまるでドラマのようで、皆異なるものです。考えてみれば、じつに不思議ですね。だれがこのような脚本を作るのでしょうか・・・。
- ・ところで、小説家司馬遼太郎氏は（大阪出身）、「**青少年時代の顔は、生まれ出た素材そのままの顔だ。**」と言いました。ところが老いるに従い、どうなるかと言えば、「**品性その他すべての精神内容が、彫刻作品にノミで刻まれるように顔に表われる。**」と言います。ですから、10代の時の顔、30代の時の顔、60代の時の顔、そして90代の時の顔、という作品には、それぞれの人生ストーリーが刻まれていくのです。
- ・「人生100年時代」の生き方を説いたベストセラー「ライフ・シフト」が、ある実験を紹介しました。絵描きさんが、ある青年の老いた時の顔を似顔絵（深いしわや、頭髪の量と色なども詳細に）で描きました。その老いた時の顔を見せられた青年は、将来のために貯蓄する額がなんと2倍以上になるという結果が出たそうです。もう、お分かりでしょう。私も似顔絵を若い頃に見ていたら、だいぶ違っていたかも知れませんね。
- ・ところで聖書は、「**わたしたちは神の作品であって、良い行いをするように、キリスト・イエスにあって造られたのである。神は、わたしたちが、良い行いをして日を過ごすようにと、あらかじめ備えて下さったのである。**」（エペソ2:10）と語っています。私たちはみな、神の作品です。一度しか与えられていない尊い生涯です。私たちは、どんな生き方をしてきたでしょうか。あるいは、どんな生き方をしているでしょうか。私たちは、どんな似顔絵をもって生きているでしょうか。
- ・聖書では、信仰の先輩パウロから素晴らしい似顔絵を見ることができます。私たちは今日、「本当に大切なものを悟る時」と題して、みことばを開きましょう。2点

大切なポイント**1. 内なる人の力**

4:16 ですから、私たちは勇気を失いません。たとえ私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。

- ・パウロは、人には二人の自分がいると言いました。それは、「外なる人」

(外に見える自分)と、「内なる人」(他人には見えない)です。まずこの2点を考えましょう。

1) 外なる人

- 外なる人とは、私たちの壊れやすい土の器、死んでしまう体のことです。人は時間とともに体は衰えていきます。どんな人にも例外はありません。若い時、平気でしていたことが、加齢とともに難しくなり出来なくなります。若いときは当たり前のように、していたことができなくなります。そして他人の助けを必要とする身、つまり介護が必要となります。
- すなわち、人間は有限(限りがある)の存在であることです。これは誰もが認めることでしょう。しかしパウロは、「**私たちは勇気を失いません。たとえ私たちの外なる人は衰えても**」、と言いました。外なる体が衰えても、パウロは勇気を失いません。と言いました。
- 私たちは普通、「外なる人」を見ます。外側をどれだけ装うことができても、それは有限であることは明らかです。有限であるものは、やがて朽ちてしまいます。旧約聖書の時代、伝道者はこう言いました。 **伝道者の書1章**
1:2 空の空。伝道者は言う。空の空。すべては空。
1:3 日の下で、どんなに労苦しても、それが何の益になろうか。
- この伝道者とは、いったいどんな人物であったでしょうか
【新改訳2017】伝道者の書
2:4 私は自分の事業を拡張し、自分のために邸宅を建て、いくつものぶどう畑を設け、
2:5 いくつもの庭と園を造り、そこにあらゆる種類の果樹を植えた。
2:6 木の茂った森を潤すためにいくつもの池も造った。
2:7 私は男女の奴隷を得、家で生まれた奴隷も何人もいた。私は、私より前にエルサレムにいただれよりも、多くの牛や羊を所有していた。
2:8 私はまた、自分のために銀や金、それに王たちの宝や諸州の宝も集めた。男女の歌い手を得、人の子らの快樂である、多くの側女を手に入れた。
- 伝道者はこの世の中では、いわゆる成功者でありました。しかし、彼はすては空、むなしいと言いました。
- 新訳聖書の時代に入り、パウロもその「外なる人」の虚しさを味わいました。彼も当時のユダヤ社会では、高い教育を受けた能力の高い人でした。しかし、彼も「外なる人」が有限であり虚しいことを知りました。
- パウロの幸いは、「**たとえ私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。**」と断言できたことでした。
- 皆さん。彼はなぜ、そのように語ることができたのでしょうか。それは彼の内なる人が、日々、新たにされる経験をしていたからです。

2) 内なる人

- 4:16 ですから、私たちは勇気を失いません。たとえ私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。**
- 内なる人とは、どういう人のことでしょうか。それはイエス・キリストを救い主と信じ、

イエスとともに歩む人です。十字架にかかられたイエスをキリスト（救い主）と信じ、歩む人のことです。

- ・イエスは十字架にかかられて死なれました。しかし三日目に墓よりよみがえられました。死を打ち破ったイエスは、多くの人々の前に復活され、生きておられる姿を現されました。そして、群衆の前でオリーブ山から天に昇られました（昇天）。
- ・ですからイエスは、今も生きておられます。イエスは昇天された時に、2人の天使が現れ次のように言いました。使徒の働き 1章

新改訳2017 使徒の働き

1:11 そしてこう言った。「ガリラヤの人たち、どうして天を見上げて立っているのですか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行くのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになります。」

- ・イエスはもう一度、この地上に来られるお方です（再臨）。
ですから、このイエスを信じる人は、今も生きておられるイエスとともに歩む人のことです。それは「外なる人」でなく、パウロは「内なる人」と言い表しました。イエスを信じる人のとは、内側にイエスがともにいてくださいます。 2コリント人への手紙 5章

5:17 だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。

- ・私はこの聖句を開くたびに、神学校時代、伝道学を教えてくださいました教師 Karl Bayer 師を思い出します。Bayer 先生は、毎回授業が始まり前に、必ずこの聖句にメロデーをつけ、アカペラで賛美し、そして授業を始める人でした。彼の顔は明るく喜びに包まれ、「内なる人」は新しくされる確信に満ちていました。まさしく「内なる人は日々新たにされています。」という証しでした。

- ・愛する皆さん。外と内、どちらが大切でしょうか。もちろん、外も大切であることは否定しません。しかし有限よりも、無限につづく、日々新しされることの方が大切です。無限につづく価値の方が、はるかに価値があります。

- ・ 2コリント 4：17 【新改訳2017】

4:17 私たちの一時の軽い苦難は、それとは比べものにならないほど重い永遠の栄光を、私たちにもたらすのです。

ですから、パウロは「勇気を失いません」と言いました。それは「勇気を失うはずはありません」、or「置き去りにされ、疲れはしない」という意味です。

- ・「内なる人」の幸いを知った人は、ひと時の患難より永遠の栄光を獲得した人です。
- ・「内なる人」が新しくされるとは、加齢（年をとるにつれて）とともに、私の内側には新しくされていく部分があるということです。それは聖霊によって新しくされる私たちの魂です。肉体は日々衰えていきますが、キリストの命によって、私の「内なる人」が日々新たにされていくのです。

なんという幸いではありませんか。

- ・そこで大切なことは、私たちが何を見て歩むかということです。

2. 大切な視点の置き所

4:18 私たちは、見えるものではなく、見えないものにこそ目を留めます。見えるものは一時的であり、見えないものはいつまでも続くからです。

- ・日々、新たにされる「内なる人」は、生き方の視点が違います。「外なる人」を見ているわけではありません。もちろん、外側も大切です。しかし、もっと幸いな所に視点を置く生き方です。パウロは、自分の生き方を次のように言い表しました。

1 コリント 9 章 【新改訳2017】

9:26 ですから、私は目標がはっきりしないような走り方はしません。空を打つような拳闘もしません。

9:27 むしろ、私は自分のからだを打ちたたいて服従させます。ほかの人に宣べ伝えておきながら、自分自身が失格者にならないようにするためです。

- ・では、どうすればそのような視点を持つことができるでしょうか。聖書には、信仰の先人パウロという素晴らしい「似顔絵」を見ることができます。パウロはどのような生き方をしたか学ぶことは、勉強になります。学習なくして、成長はありません。学習は受け身ではなく、自分から学ぶ意欲が湧かないかぎり、行動に現れません。
- ・ですから、そこで大切なことは日々心を静める時間を確保することです。私たちが言う「devotion」(デイボーション)です。

- ① 心静める時間を確保する
- ② 心から祈る時間を確保する
- ③ 心から聖書を読むこと

これら3点が基本的なことです。

- ・愛する皆さん。私たちの最大の問題は、この3点をキープする時間確保です。仕事、家事、スポーツ、趣味など、やりたいことが多すぎるのです。ですから、時間がとれないと言います。牧師の私がそうです。
- ・でも、もしそのような生涯を送っているだけならば、神が私たちに教えたいと願っている信仰の先人から学ぶことはないでしょう。

(例 話)

- ・今回、皆さんはよくご存知のように、私には3週間の入院生活が与えられました。約4時間にわたる手術と、その後の快復も順調に進みました。内外の多数の方々が私のために、神にお祈りくださり本当に感謝しています。
- ・術後2週間で、すべての血液検査は正常となり、予定された「リハビリ・メニュー」もすべてを完了し、病院でのリハビリ治療は卒業となりました。
- ・そこで、私は心晴れて、最終的に執刀医(大阪大学教授)の診察を受けることになりました。執刀医は「術後の傷口がまだ完全にふさがっていないので、日常生活では細菌が入り化膿しやすい。最悪の場合、再手術となる可能性がある。もう1週間入院生活を延ばしましょう!」と言われました。
- ・これは、私の予期していたことと大きく異なりました。教会でやりたいことが多々ある

からです。丁度、そのころ私が病室で読んでいた本、「修養する生活」(The Cultivated Life) から教えられました。

- ・この本は、超多忙な生活を過ごしている米国のビジネスマンや、多忙な人生を送っている人に書かれた精神カウンセリングの内容です。(良書ですから一読をお薦めします。)
- ・神が、私の入院生活を1週間延ばし、重要なこと：「主の前に、心静める時間をつくり、祈る時間をつくり、聖書を読む時間をつくるように」と、私にはっきりと教えてくれました。本当に感謝しています。以前、私は年間300回以上の集会を持ち、メッセージしていたことがありました。とても忙しかったです(今は集会数を減らしています)。しかし、神は私の今回の病状を通して、もっとも大切なことを教えてくださいました。感謝。

- ・話を元にもどしましょう。私たちにとって大切なことは、視点の置き所です。

4:18 私たちは、見えるものではなく、見えないものにこそ目を留めます。見えるものは一時的であり、見えないものはいつまでも続くからです。

- ・今日、私たちは「敬老の日礼拝」を迎えています。しかし、高齢者だけでなく、中高年者も、青年も、そして子どもたちも、正しい視点の置き所を持つ必要を教えられました。
- ・イエスが私たちをお救いくださった目的は、私たちの人生を祝福するためです。イエスの十字架の御死と復活によって魂の救いに与りました。そして、神は私たちを祝福の高嶺に導こうとしておられるのです。私たちはどのような人生を送っているのでしょうか。

ま と め

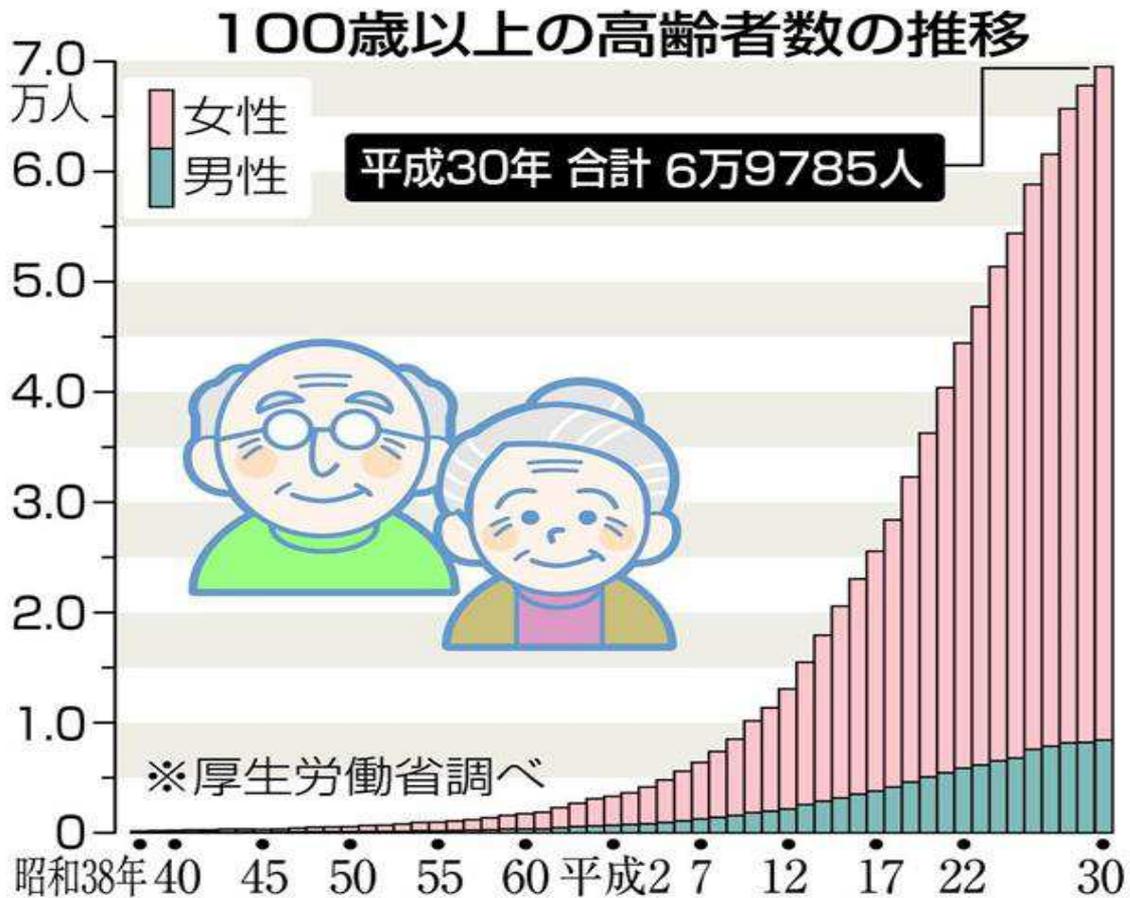
主 題：「本当に大切なものを悟る時」

—主が語られる—

- ・今日、私たちは「敬老の日礼拝」で、大切な主のことばを聞きました。私たちは毎日、大変多忙な日々を過ごしています。どこに向かっているのでしょうか。私たちはどこを見て生活しているのでしょうか。
- ・今日の説教の要約として、次のみことばで終わりたいと思います。
- 4:18 私たちは、見えるものではなく、見えないものにこそ目を留めます。見えるものは一時的であり、見えないものはいつまでも続くからです。
- ・何が求められているのでしょうか？ → 神への「信仰」です。
このお方に信仰の視点をおいて歩む人生こそ、もっとも幸いな人生であります。

* God bless you !

<資 料> 2018 年度



<資料>厚生労働省 2019年9月15日時点

- ・100歳以上 7万1238人
(女性6万2775人、男性8千463人)
女性が88%をしめる
- ・国内最高齢は、女性が「ギネス・ワールドレコード」から世界最高齢と認定されている116歳の田中カ子さん（福岡県）。男性は112歳の渡辺智哲さん（新潟県）。
- ・平均寿命：女性が87、32歳、男性は81，25歳。
- ・都道府県別トップ：①高知、②鹿児島、③島根、④鳥取、⑤山梨